

令和6年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)				前年度の成果と課題			本年度学校経営の重点(短期経営目標)						
「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りに貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。 (1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。 (2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。 (3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。				教育活動への大きな制限もなく、本校がこれまで培ってきた南北両キャンパスの特色ある活動の多くを取り戻すことができた。ただし、この数年の社会情勢や人々の感覚の変化、生徒を取り巻く教育環境の変化をとらえた教育活動であることの検証が必要である。 学習に取り組む意欲が弱く、基礎的な学力に課題のある生徒に対して、学び直しとなるスモールステップを意識した丁寧な授業を行ってきた。生徒対象の授業アンケートでは、分かりやすい授業であるとの評価が多い結果となり評価できる。3学年が揃うタブレット端末の活用により学習形態のUD化をすめ、学習する雰囲気高めめることにつなげた。 また、基本的な生活習慣の確立のために遅刻・欠席状況について家庭との連携を密にし、生徒の状況把握に努めた結果、特別ニーズ会議等で検討を重ねて適切な支援につなげることができた。しかし、単位修得に影響が出る生徒も多く、社会的自立心を育む教育活動を意識した生徒指導を全校的に行わなければならない。その方策のひとつとして、日々の学習の動機づけ、学習目標・進路目標の意識付けを生徒に促す、系統的なキャリア教育の推進をすすめる必要がある。 教職員が一致した指導を行うことで、学校全体の生活規律の改善が見られた。多様なエリア・コースを設置し南北キャンパスのそれぞれの特色化をすすめるながらも、両キャンパスの教職員間、また地域と連携をとりながら、教育活動の活性化を図りたい。			南北両キャンパスそれぞれの個性を生かしながら、あらゆる教育活動をとおして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。 (1) 個々の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実及び特色ある教育活動の推進 (2) 保護者・地域との連携による基本的な生活習慣の確立及び社会的自立心の育成 (3) ICT教育の充実、学習形態のUD化の推進 (4) 達成感や自己肯定感の醸成を図るキャリア教育の充実、推進 (5) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化 (6) 各学科それぞれの教育内容改善に向けた検討と方策の具体化 (7) 就修学保障及び進路保障に向けた指導の充実 (8) 安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実 (9) 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の推進 (10) ワークライフバランス及びタイムマネジメントの意識を高め、時間外勤務縮減に向けた業務改善や多忙化改善						
分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策		方策の評価指標		ターゲット	評価	成果と課題
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。		どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間	年度末	
組織運営	組織運営	教職員の資質向上	各種研修を活用することで学校の教育力を向上させる。	教職員の資質向上を図るための計画的な研修の受講	受講者数20名以上	3	センター研修等の積極的な受講を促し、3年間ですべての教員が研修を受講する。(2年目)	他教科の授業を含めた授業見学の充実	悉皆研修に加えた研修の受講者数	のべ20名以上のべ200名以上	3333	学校DX研修の悉皆研修は全員が受講済みであり、他の研修や講演会への積極的な参加が見られる。任意の研修会への参加実人数を増やしたい。授業見学にはのべ300名近の参加があった。	
	組織運営	学習のUD化の推進	ICT機器を積極的に活用し、学習のUD化を推進する。	ICT機器を活用した授業の割合	70%	3	春と秋の授業見学期間を活用して、特にICT機器を活用した授業に取り組む。ICT機器を活用した教職員の負担軽減策の工夫	期間中の機器活用割合新しい取組の実践数	70%2企画	3323	授業でのICT機器の活用は順調に進んでいる。ネットワーク担当を中心に、校内での活用報告会を企画開催して情報共有を図っている。次年度はMetaMojからTeamsへの移行を図る必要がある。		
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	学校満足度アンケート「人権意識を高めるための学習や指導に積極的に取り組んでいる」項目に対する肯定率	80%	3	校内のUD化を推進する	効果的なUD学習を実施する	企画実施回数UD学習後の教員アンケートにおける内容評価(4段階中)	3回以上3.3	2333	UD学習について、教員アンケートの内容評価は総合で4段階中3.6であり目標を達成できた。生徒に関しては、3年生のアンケートから、92.7%の生徒が「様々な個性や違いを認め合えるようになった」と回答しており、UD学習の効果が確認できる。校内のUD化に関しては、ピクトグラムを用いた案内図を作成し、北キャンパスの各校舎に掲示を行うこととした。重点目標については基準を4%上回っており、今後も生徒が積極的に取り組む環境づくりに努めたい。	
	組織・運営	生徒募集	本校の魅力を効果的に発信し、志願者を増やす。	入試選抜における志願者数を増やす。	前年度の志願者数を超えている	2	学校ホームページの充実 中学校及び塾訪問の実施 学校説明会の参加促進と内容充実	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 年間訪問回数(定例の中学校訪問は除く) 学校説明会参加者の前年度比	175回以上5回以上20%増	3322	学校ホームページに関しては、2月終了時点で183回更新することができおり、関係各所の協力を得て目標を達成することができた。一方で、学校説明会への生徒参加実数は昨年度が220名で今年度が228名となり、目標の20%増には至らなかった。中学校等の訪問については、学校全体で行う中学校訪問を除いて、計12回の中学校訪問を行った。交流を積極的に行うことで、中高の連携が深まったと考える。一方で、本校志願者を増やすためには学校案内(ガイドブック)や学校紹介動画を始めとする広報資料の改良を行い、中学生や保護者に本校の魅力が伝わるよう、地道な広報活動を継続する必要がある。		
教務部	組織・運営	生徒異動	学習指導・学習環境の充実による学ぶ意欲の向上	転退学者数	昨年度比減	2	考査前、学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する 追認対象生徒に対する補充を実施する 校務システムへの入力及び欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	成績不振者数 追認認定率 注意喚起及び状況報告の実施回数	昨年度比減80%以上週1回	2233	重点目標とした転退学者数は、昨年度と比較し増加している。主な理由は欠課過多や成績不振によるものである。欠席状況を把握し、担任をとおして注意喚起を行い、成績不振者を減らすために基礎補充を実施しているが、成果は出ていない。考査ごとや長期休業中の補充だけではなく、日常的な取組により学習意欲が高められるようなしかけを考えていく必要がある。		
	組織・運営	学力向上	学習指導の充実を図る	学校満足度アンケート「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	67%	3	読書活動の推進 ICT活用の推進	生徒一人あたりの貸出冊数 研修会の実施回数	昨年度比増3回	2333	重点目標の評価指標である学校満足度アンケート「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率は67%と3の基準は達成できた。一方で、図書の出貸冊数は昨年度より減少していた。読書活動の推進やICTの更なる利活用によって、生徒の学習意欲を高められるように工夫していく必要がある。		
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	高校生としてふさわしい態度や行動を身につけさせる。	学校満足度アンケート(Q12 エチケツ指導がきちんとできている)の肯定率の平均	肯定率75%以上	3	高校生としてふさわしい態度についての啓発活動(担任への資料提供、生徒会活動、教室掲示等) (北キャンパス)携帯電話の取扱について日々注意喚起を行う 生活規律指導を用いた指導	実施回数 携帯電話指導件数5〜7月と10〜12月を比較した増減 (北キャンパス)1学期と2学期を比較した増減 (南キャンパス)学期内の早期登校完了者数の割合	10回10%減10%減80%	3222	(北)重点目標の指標とした肯定率は82%であった。生活規律指導については2学期に増加していった。実施方法や形態を再度考え直し、より効果のあるものにしていきたいと思う。 (南)南キャンパスの学期内早期登校完了数の割合は50%を下回り3の基準を満たさなかった。遅刻改善や基本的な生活習慣の確立につながった生徒も一定のもの、指導方法を改善していく必要がある。		
	生徒指導	部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	学校満足度アンケート「本校に打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率75%以上強い肯定率35%以上	2	生徒指導部だより等の発行によるアピール 部活動加入を促進	発行回数 12月時点での部活動加入率(昨年度末より5%増加)	10回46%	2222	部活動への加入率は年度当初から大きく変動せず昨年度より低かった。部活動加入率の向上には、年度途中ではなく年度当初の活動がやはり重要であると考えられるため、部活動紹介等について実施形態から再考し対策する。		
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度アンケート「将来の進路や生き方について考える機会が設けられていると思いますか」の肯定率	90%	2	進路情報の効果的な提供を行う。 進路に関するホームページ記事を年間を通じて継続的に更新する。 進路ガイダンスやHRIにおける進路学習を通じて、進路実現について考える機会を持つ。	学校満足度アンケート「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思いますか」の肯定率 記事の更新回数 学校満足度アンケート調査「生徒の進路実現に向けて、効果的な指導を行っていると思いますか」の肯定率	90%30回以上90%	2322	重点目標の評価指標の基準90%に対して結果は88%と僅かに足りなかった。学年別に見ると、3年生は94%と高い肯定率だったのにに対し、2年88%、1年85%と学年が下がるにつれて肯定率も下がった。これは進路指導部の感覚とも一致しており、来年度は1、2年生に対する進路指導のさらなる充実を図る必要がある。		
	保健管理	環境管理	安心安全な教育環境を維持するため、環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート「教室や廊下、下駄箱はきれいに清掃されていますか」の肯定率	70%	3	安全美化委員会、生徒会、保健委員会で清掃活動に関する呼びかけを行う。 定期的に、校舎内外の衛生・安全面における環境整備の状況や清掃用具の点検を行う。	呼びかけの回数 実施回数	2回学期に2回	3333	後期も美化週間の取組を通して、清掃活動への意識の向上を図った。学校満足度アンケートの結果は全体が73%であり、目標を達成することができた。北キャンパスのみの結果は基準を下回っているものの昨年度より数値は上がっており、来年度も環境美化への意識をさらに高めていきたい。		
保健部	保健管理	健康管理	心身の健康管理への意識を高める。	学校満足度アンケート「本校は生徒の心身の健康管理に取り組んでいると思いますか。」の肯定率	85%	2	「ほけんだより」を発行し、心身の健康についての情報を提供して健康管理への意識を高める。 検診後の治療報告、および未処置者への働きかけを行う。	発行回数 再勧告の実施	10回以上学期ごと	3333	年間を通じて「ほけんだより」で心身の健康に関する情報を提供し、検診後には治療報告を行うとともに必要に応じて個人面談や指導を行った。学校満足度アンケートの結果は80%であり、3の基準85%を達成することはできなかった。来年度はよりきめ細かい取組を行ってきたい。		
	学習指導・生徒指導	規律の確立と維持	日々の学校生活及び授業を大切にす基本的な生活習慣の確立を図り、それを維持する。	学校満足度アンケート「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%	3	日々のSHRIにおいて遅刻・欠席・授業規律などの徹底した指導を行う。 生徒の状況を把握するために担任と生徒及び保護者との面談を行う。 キャリア教育や交流行事等を推進することで勤労観・職業観の形成を目指し、自立を促す。	担任による確認・指導頻度 面談の実施回数 キャリア教育に関するガイダンス等の実施回数	週3回年間3回年間10回	3333	評価指標としていた満足度アンケートの該当項目の結果は61%と目標をわずかに上回った。定期考査前の補習・学習活動等の学習する雰囲気づくりの成果はある一定認められたが、基本的な生活習慣の確立において困難があった生徒が散見された。遅刻・欠席に対するの注意喚起はしていたが、その方法も含めて再度検討が必要な状態である。		
第2学年部	進路指導	進路意識の向上	進路保障に向けた指導を検討・改善し、進路希望未決定者を減らす。	学年末進路希望未決定者数	20名以下	3	生徒や社会の状況やニーズを捉え、時宜を得た声かけや指導を行う。 きめ細やかな進路情報を提供し、将来への考えを深める機会を増やす。 将来を見据え自己実現を果たすために学習するという雰囲気高めめる。 両キャンパス間を含めて学年の連携を密にし、生徒の情報を共有する。	個別面談実施回数 進路学習実施回数 「8学習する雰囲気」肯定率 情報の共有頻度	年間3回年間5回70%週1回	332222	各種進路ガイダンスや就職セミナー、キャリア教育等と連動しながら進路意識を向上させた。研修旅行などを機に南北キャンパス間の連携を強化したが、生徒の状況や進路希望等の情報共有については未だ改善の余地がある。現在進路希望が全くの未定の者は両キャンパス合わせて2名おり、第三学年進級を迎えるにあたって、よりきめ細かな指導を行いたい。		
	進路指導	進路保障	生徒一人一人の、進路を決めて卒業させる。	年度末の進路決定者の割合	95%	3	個別面談を通して生徒の希望進路を把握し、各分掌や保護者と連携して指導を行う。 進路実現に向け、ガイダンスや進路別学習会、就職セミナー、面接指導を南北キャンパスで足並みをそろえて計画的に実施する。 南北キャンパスの連携を密にする。	生徒や保護者との面談回数 定期的な進捗状況の確認と進捗に応じた計画修正の実施 情報の共有頻度	年間で3回33週1回	3323	進路決定者の割合は96.8%であり目標を達成した。ただし、フリーターを選択する生徒も少なくはなく、今後どのようにそういった生徒を指導していくかが課題として残された。		
事務部	施設設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実に努める。	施設設備に起因する生徒の事故件数	0件	2	校舎・敷地内の日常点検を実施する。 教職員から施設設備の異常報告を受けた際に、速やかに対応策を検討する。 改修等を必要とする案件を所管課に報告し、改善を依頼する。	巡視の週当たりの実施回数 対応策の決定、改善完了の報告 報告・依頼の時期	1回報告毎案件毎	2233	日常点検や異常報告により施設・設備の改善箇所を把握することはできたが、予算や人手の関係で全ての改善にはいたっていない。		
	組織・運営	事務処理	生徒・保護者等に対して、就修学保障や進路保障など各種制度に関する連絡や処理を適切に行う。	就修学及び進学・就職を支援するための支援制度の周知徹底	制度通知の都度	3	生徒・保護者等に対する連絡や、手続きの進捗状況を北南の事務室内で共有し連携を図る。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	配付資料、校内締切日等の調整及び確認 配布依頼の際、教職員への適切な説明及び周知	案内毎配布毎	3333	個別配布や案内文書掲示などにより、対象者に各種制度の周知をすることができた。また、学年部と密に調整し、連絡のつきづらいい保護者等に対しても対応することができた。		
専門学科	魅力ある学科作り	学習指導	専門学科生に必要な主体的に学ぶ姿勢と幅広い学力を身につける。	学校満足度アンケート2「奉仕・体験・読書活動など、幅広い学力を身につける取り組みが充実していますか」の肯定率	90%	2	教室及び机の周囲の整理整頓、学習環境の整備を行う。 授業の開始時と終礼時の挨拶、授業準備を徹底する。 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の機会や内容改善に向けた取組を行う。	各教室の巡回及び点検を行う。 授業アンケート7「クラス全体が授業の準備をしかりしている」の肯定率 実施機会や内容改善に向けた取組件数	週2回以上3.4以上両学科1つ	3233	方策2について、クラス全体では333、個人でも342と少し改善したが、学校満足度アンケート2の結果は83%、同8学校全体に学習する雰囲気があるかについての肯定率も低く、学習に向かう姿勢やその環境作りについて、生徒の声を聞きながら学校生活全般に視野を広げ改善していく必要がある。		

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題	
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末		
国語科(北)	学習指導	学力の向上の意識付け	生徒一人一人を積極的に授業に参加させ、学力の向上を実感させる。	授業アンケートQ6の平均値	3.5	2	生徒それぞれに定期テストや単元の終わりに評価の状況を説明し、改善を図らせる。	実施回数	定期テストごと	2	3	第2回授業評価アンケートQ6「学力・技術の伸長を感じる」の平均値は3.22であった。学年別では1年生が2.96と特に低く、学習の仕方がわからないまま漫然と授業に臨んでいるのではないかと思われる。したがって、1年生には特に学習方法や授業姿勢など、根本的な部分から丁寧に指導する必要がある。
							単元ごとに1回以上の授業内容を踏まえた課題を課す。	実施回数	単元ごとに1回以上	3	3	
地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	学習に向かう雰囲気を作り、基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q3、6、8の平均値	3.4	2	計画的に小テストを実施し、学習習慣の定着を図る。	得点率	60%	2	2	授業アンケートの項目6が教科平均3.2と低かったため、生徒が学力の伸長を感じる授業改善を行いたい。
							授業開始時に教科書、資料集、ノートなど必要物を確認する。 考查ごとに学習内容の振り返りを行う。 学期ごとに授業見学と意見交流を行い、ICTの活用方法などを共有する。	年間実施率	95%	3	3	
数学科(北)	授業	授業規律の向上と授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒たちに意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実に図る。	成績不振者数(欠課過多生徒除く)の割合	前年度比減	3	服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。	授業の取組の点検	週3回	3	3	授業アンケートQ3の平均値は3.58と基準を超えた。3学期中間時点での成績不振者の割合は昨年度11.5%に対し、今年度9.1%と減少した。授業規律を整え、手厚く指導できた結果と考える。次年度以降も継続して、さらに割合を減らせるようにする。
							ICTを活用した、意欲的に取り組めるような教材を作成・利用する。	ICTの活用回数	週3回	2	3	
理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心をもち、自然現象に対する関心と理解を高める。	不振者数の減少	年度末成績不振者数が全生徒数の8%以下	3	個別最適な授業の展開	授業アンケートQ3「この授業はわかりやすい」の平均値	3.5	3	3	欠時数超過者を除くと、成績不振者数8%未満は達成できる見通しである。レポート、実習等も適宜実施できた。DVDを用いて生徒の興味関心を引きつけることができた。確認テストはできたときもあればできなかった時があった。
							実物を手に取っての観察や実験、実験動画をを用いて「考察」を行わせる。 生徒の学習内容の定着度をはかるために確認テストを行う。 課題を設定し、レポートを作成させ、科学的な思考・表現力を高める。 授業・受け持ち生徒および評価に関する報告・検討会を設ける。	実施回数	各講座平均3回	2	2	
保健体育科(北)	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力の向上を図る。	授業アンケートQ12「私は授業に積極的に取り組んでいる」の評価の平均値	3.5	2	授業での身だしなみ、ルールやマナーを守る意識を向上させる。	実施回数	各科目1回以上/単元	2	2	発表の場がクラス(講座)内だけでなく、校内での作品展やコンサート等で多くの人に鑑賞してもらう機会がもて、制作や練習に取り組む態度の向上にもつながった。3観点評価によって単位認定が容易になった部分があるが、未完成課題が残らないように粘り強く指導した。
							健康の保持増進につながる基礎体力の向上を目指す。	実施回数	70%	2	3	
芸術科(北)	授業	授業の取り組み状況	授業規律を確保し、諸活動に真剣に前向きに取り組む姿勢の定着を図る	授業アンケートの項目7,8,10,11の全講座平均値	3.5	3	授業開始チャイムの前から呼びかけ、忘れ物の確認や私語・居眠り・活動状況について常に指導する。	授業規律確保のための声かけの状況	常時	3	3	発表の場がクラス(講座)内だけでなく、校内での作品展やコンサート等で多くの人に鑑賞してもらう機会がもて、制作や練習に取り組む態度の向上にもつながった。3観点評価によって単位認定が容易になった部分があるが、未完成課題が残らないように粘り強く指導した。
							取り組み課題について、作品や演奏でより良い表現を目指して粘り強く努力するように指導する。 日頃の成果を発表する場を設定することで、自己の作品・演劇に責任をもたせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	各生徒の活動状況に応じた指導の割合	80%	3	3	
英語科(北)	学習指導	基礎学力の向上	日々の授業を大切にする姿勢を育み、英語の基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ6(学力・技術の伸長を感じる)の平均値	3.3	3	小テストや振り返りシート等を通して、生徒の学習状況と定着度を確認する。	各学期の実施回数	10回以上	3	2	2学期の授業アンケートQ6の英語科平均は3.3であり、目標に達した。しかし、目標に届いていない学年もあり、今後も生徒の学力伸長に向けて指導を工夫していく必要がある。ALTの活用については、依然として科目による実施回数のばらつきが存在するため、次年度以降は年度当初に1年間のスケジュールを見渡した上で、どの科目でも計画的にT・Tを実施していきたい。
							「知識・技能」だけではなく多様な観点から評価できるよう課題を精査し、こまめな点検を実施する。 どの講座でもALTを積極的に活用し、生徒が主体的に活動に取り組む時間を確保する。	各学期の実施回数	10回以上(中間以降6回以上)	2	3	
家庭科(北)	学習指導	学習意欲の向上	今後の自分の生活をより良くする方法を考えさせるために、授業に前向きに取り組ませる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	3	興味関心を持たせ、内容の理解度を高めるために、視聴覚教材を効果的に使用する。	ICT機器の使用割合	90%	3	3	視聴覚教材の効果的な活用を心がけ、生徒の振り返りの点検もほぼ毎回できた。レポートについては、学期にこだわらず、学習する分野で必ず一つは生徒に考える課題を設定するなど、工夫したい。
							授業の振り返りを記入させ、生徒の学習状況と授業の理解度を確認する。 授業内容と自分の生活を結び付けるための課題を設定し、レポートを作成する。	1年：振り返りシートの点検回数2、3年：授業プリントの点検回数	毎回	3	3	
情報科(北)	授業	授業に対する取り組み	前向きに授業に取り組み、情報化社会で生きていくための知識と技術を習得させる。	授業アンケートQ6「学力・技術の伸長を感じる」の平均値	3.3	3	座学の授業をこらで作成した動画を見せ、Webテストを行う事で定着を図る。	レポートの提出回数	各学期2回	2	2	重点項目の平均値は3.415だった。具体的方策に関しては、どちらも基準を超えた。来年度も継続していきたい。
							課題やワークシートの提出を徹底する。	実施回数割合	90%	3	3	
商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の自律的修得	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1	3	全ての授業において、パソコンまたはタブレット端末を活用する。	授業における使用頻度。	80%以上	3	3	ICT技術(Microsoft TEAMS)を活用した授業を年度を通して、すべての時間で展開することができた。その結果、振り返りを次回授業に活かすなど、自律的に学習する態度の定着が一定程度見られた。半面、グループ学習の設定時間が減り、アクティブラーニングを実践する上で課題となった。
							毎時の授業で、学習の振り返りができる時間を設定する。 ICT技術を活用して自律的な学習を促進する。	各授業での実施率	70%以上	3	3	
国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	積極的に学習する雰囲気作りに努め、基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ7～Q12の平均値	3.4	3	定期考査毎にノートを回収し点検する。	点検回収	考査毎	3	3	評価指数は3.29と、中間集計時よりやや上がったものの、わずかに届かなかった。教員の説明や、質問の対応に関する項目では3.4以上の数値が出ており、個人やクラスの授業の取り組みに関する項目も学年が上がるとうまわれている。今後は1年次から、学習に前向きに向かえるよう工夫したい。
							授業外での学習習慣の定着を図り、小テストを行う。 ICT機器を活用し、授業内容への興味関心を促す。	小テスト回数	年間10回以上	3	3	
地歴・公民科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業を意欲的に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q1～Q12の平均値	3.4	3	授業中にプリントを書かせる。また、学習項目毎にまとめを記入させる。定期的に点検をし、加点の対象とする。	実施回数	5回	2	2	授業アンケートでは平均値が(3)の基準を上回っている。タブレット利用については、1年の学習で一部導入したが、学力、学習意欲の向上に接続するより効果的な利用を模索する必要がある。
							生徒がタブレットを利用した授業を導入し、学習意欲を喚起する。	機器の使用回数	毎回	3	3	
数学科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実に図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.4	2	定期的な課題を課し、ICTを活用し家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。 始業チャイムと同時に立礼をし、授業に取り組む態度を身につけさせる。	実施割合	70%	2	2	Q10の結果は3.27であった。学習する雰囲気や環境を整えることは一定、教科内でできたと感じているが、今後さらに個人の学力の伸長を感じるには小テストなどを実施してフィードバックをするなど授業改善が必要だと考えている。
							数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	実施割合	80%	3	3	
理科(南)	学習指導	基礎学力の向上	学力の定着を図るため、学習に取り組む姿勢を高める	授業アンケート項目「この授業は楽しみ」の評価の平均値	3.4	2	数学検定への受験を呼びかけ、資格取得を意識させる。 数学検定に向けた補習を行う	授業内での呼びかけ	3回	3	3	2学期以降は受験希望者が少なかったため、数学検定の実施ができなかった。受験者を増やしていき、数学に興味関心を持たせていきたい。
							各生徒の学習状況を把握するため定期考査毎にノート点検。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	補習の実施回数	2回	3	2	
保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時における授業の流れと目標を明確にする。提出物において授業の振り返りをしっかり行う。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりしている。」の平均値	3.8	2	体育・保健の授業開始時における生徒準備状況の評価をする。 授業ノート並びに指導計画案等の提出物を期限内に提出する。	授業開始前の授業準備状況や集合整列状況	80%	3	3	中間評価に引き続きしっかりと取り組めていた。授業ノートの提出は4講座中3講座は80%を達成したが、1講座が達することができなかった。声掛けをしてノート提出を促しても、なかなか実行に移すことができない生徒がいた。
							生徒の活動状況に応じた指導の割合	次の授業につなげる内容の振り返り行い、提出率を上げる。	80%	2	2	
芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業アンケート7,8,9の平均値	3.4	3	机間指導等の学習への取組状況の確認。 課題や作品の提出期限を守らせる。 授業規律を確保する。	生徒の活動状況に応じた指導の割合	常時	3	3	重点目標の評価指標としている授業アンケート7,8,9の平均値は、2学期授業アンケートの結果3.44であり、目標を達成できた。声掛け等のはたらきかけによってほとんどの生徒が授業に対して積極的に取り組んでいた。
							ICT機器を活用した授業の実施	提出期限の明示、声掛けの実施	課題毎	3	3	
英語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	ICT機器を有効に活用し、基礎学力の向上させる	授業アンケートQ7～12の平均値	3.2	3	私語・居眠り等をする生徒への注意	常時	3	3	重点目標の基準値に到達することができた。今後ますますIT化が進むと考えられるので、次年度は効果的で多様な指導法と評価の在り方についてさらに検討したいと考えている。	
							小テストを実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する 表現活動を実施し、生徒の主体的な学習を促す。	実施割合	85%	3		3
家庭科(南)	学習指導	基礎学力の向上	実践的・体験的な授業を通して、家庭科に対する興味関心を引き出すとともに、知識・技能の向上をはかる。	授業アンケート5,6の項目の平均値	3.3	2	実践的・体験的な授業の実施	各学期の実施割合	5回以上	3	3	重点目標の評価指標としている授業アンケート5,6の項目の平均値は、2学期の授業アンケートの結果2.9であった。実習等の活動時間は確保しているが、生徒が成長を感じられていない部分がある。授業での学びが実生活とリンクするようにはたらきかけを工夫していく必要がある。
							ICT機器を活用した授業の実施	実施割合	60%	3	3	
情報科(南)	学習指導	学習意欲の向上	主体的に授業に参加し自ら学ぶ態度、姿勢を育てる	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の評価の平均値	3.3	3	授業時間内の課題や、振り返り課題の実施	実施割合	85%	3	3	授業アンケートQ12の結果は3.32となりわずかに上回った。今後も学習状況の把握と一人ひとりに対しきめ細やかな指導をしていきたい。
							授業開始時にはコンピュータ起動ができていないか点検する。 課題への取組状況や態度を点検する。	実施割合	70%	3	3	
福祉科	学習指導	基礎学力の向上及び専門的な知識や技術の定着	授業規律を確立し、専門的な知識・技術の定着をはかる。	授業アンケート7～12平均値	3.5以上	2	授業開始時にはコンピュータ起動ができていないか点検する。 課題への取組状況や態度を点検する。	指導割合	80%	3	3	授業アンケート7～12の平均値が「3.25」と中間よりわずかに向上したものの、目標を大きく下回った。1年生の評価が突出して低かったため、さらに幅広い学習方法をICTを活用しながら工夫改善していく必要がある。
							授業規律を確立し、授業に取り組む姿勢を身につけさせる。 ICT機器を活用した授業を実施する。	指導割合	90%	3	3	